



## 「シイタケ」

### NPO法人 ハートinハートなんぐん市場



愛媛  
CATV  
動画

心地よい木漏れ日とそよ風が流れる森の中、原木1万本近くを管理してシイタケを栽培しているNPO法人ハートinハートなんぐん市場。

シイタケが育つ原木をホダ木と言い、ホダ木が並べられた栽培エリアをホダ場と言います。なんぐん市場の徹底した栽培管理は高く評価されており、一昨年に県知事賞、昨年は林野庁長官賞、そして今年は『第65回愛媛県しいたけ共進会』で農林水産大臣賞に輝きました。

毎年10月頃からホダ木となるクヌギを山から切り出し、1~3月の間に植菌作業を行います。植菌したホダ木から本格的にシイタケが収穫できるのは翌年の秋からで、2回夏を越えなくてはなりません。特に梅雨時期から夏場にかけては、湿気でシイタケ菌が雑菌に負けてしまわないようホダ木を並べ替えて通気性を向上させ、一方でホダ木を乾燥させないために散水作業を行い、シイタケの生育に適した環境づくりに努めています。日々の管理に当たっている田上純一じゅんいちさんは、「一番大切なのは水分のコントロール。身がしっかりとっていて、きれいなシイタケが収穫できたときにとてもやりがいを感じる」と笑顔で話します。なんぐん市場自慢の逸品は、緑新鮮市をはじめ町内の産直市で販売しています。乾シイタケは通年で購入でき、収穫期間中は生シイタケも販売しています。

なんぐん市場がシイタケの栽培を始めたのは12年前。東日本大震災の影響で国内における原木シイタケの生産者および生産量が著しく減少したため、水稻や柑橘の栽培に取り組んでいたなんぐん市場は、栽培品目にシイタケを追加しました。初めて挑戦する品目であったため、最大限に情報を収集しながら理想のシイタケを求めて栽培をしていましたが、調べた情報だけでは分からない部分も多くありました。そんな中、以前から僧都地区でシイタケを栽培していた下田かつしげ勝重さんを紹介してもらい、以降、直接指導を受けながら環境づくりや栽培方法の改良を重ねてきました。

なんぐん市場のホダ場を訪れた際には、細部にまで目を光らせて自身が培ってきたノウハウを伝える下田さん。「シイタケ栽培は毎年勉強。町内でも数少ないシイタケ生産者の彼らを精一杯サポートしていきたい」と期待を込めて述べました。それを受けて田上さんは、「下田さんは私たちの道標。生産量を増やしていきたいと考えており、指導をいただきながら今後も上質なシイタケを生産していきたい」と意欲を見せ、師匠と弟子のような関係が築かれていました。



▲農林水産大臣からの賞状を手笑顔を見せる田上さん（左）と下田さん



▲旬は10月から3月まで。なんぐん市場のメンバーが協力して1日300kg近く収穫



▲山の斜面に広がるホダ場は、階段を設置するなどして作業環境が整えられている



▲梅雨本番を前に行ったホダ木の移動。声を掛け合い華麗な連携プレー